

# データ活用による介護DXと標準化

コニカミノルタQOLソリューションズ株式会社

## コニカミノルタQOLソリューションズ株式会社

代表者：代表取締役社長 野田 篤広

設立：2018年12月1日

事業内容：介護業務に係る製品、情報システム及びサービスの開発、販売、コンサルティング

所在地：〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目27番10号 八丁堀プラザビル5F

### ■ブランドコンセプト

ひとめく  
**HitomeQ**

私たちは、一人ひとりを想い、考え、  
そして、ひらめく。  
すべての人が、  
自分らしく生きられる世界を、共に創りたい。

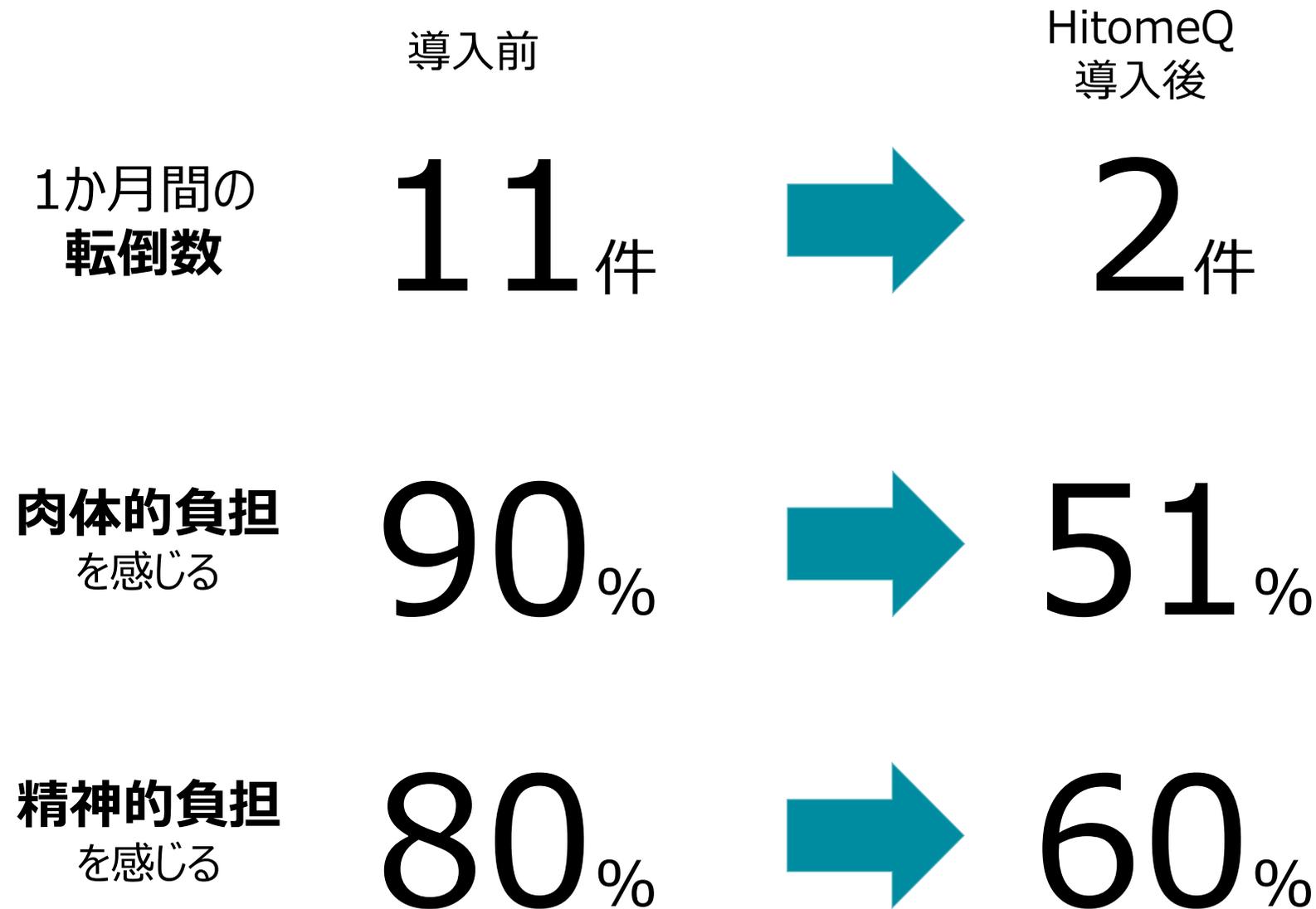


### ■導入施設 全国182施設(2024年4月現在)



※掲載は一部の施設様です。

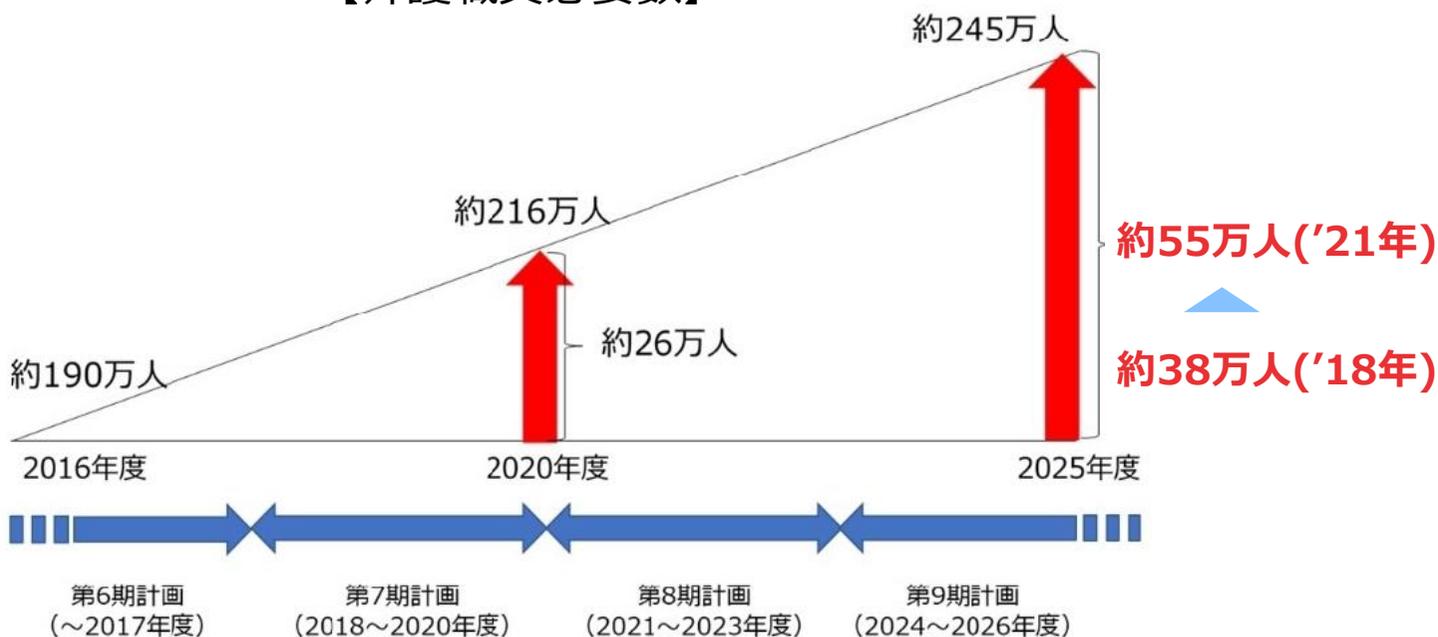




# 1) 社会動向

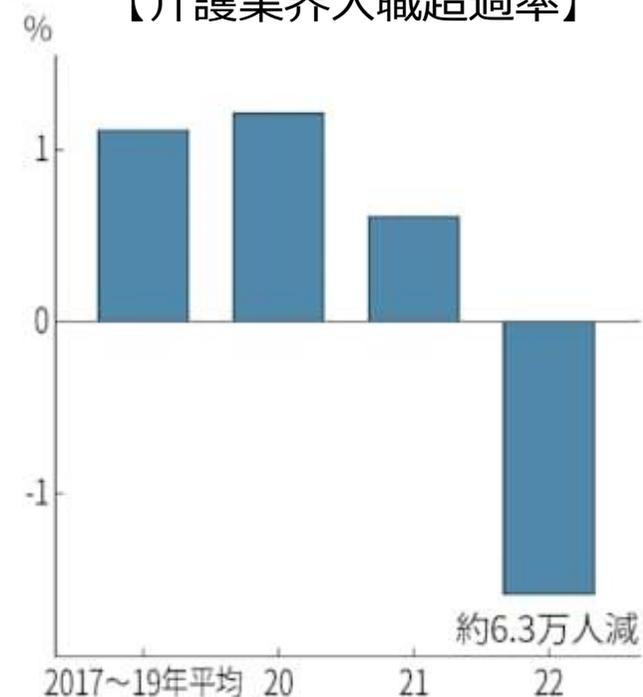
## 想定を大きく上回る介護人材不足 介護職員の確保と業務効率化が急務

【介護職員必要数】



(出典) ニッセイ研究所 2021年

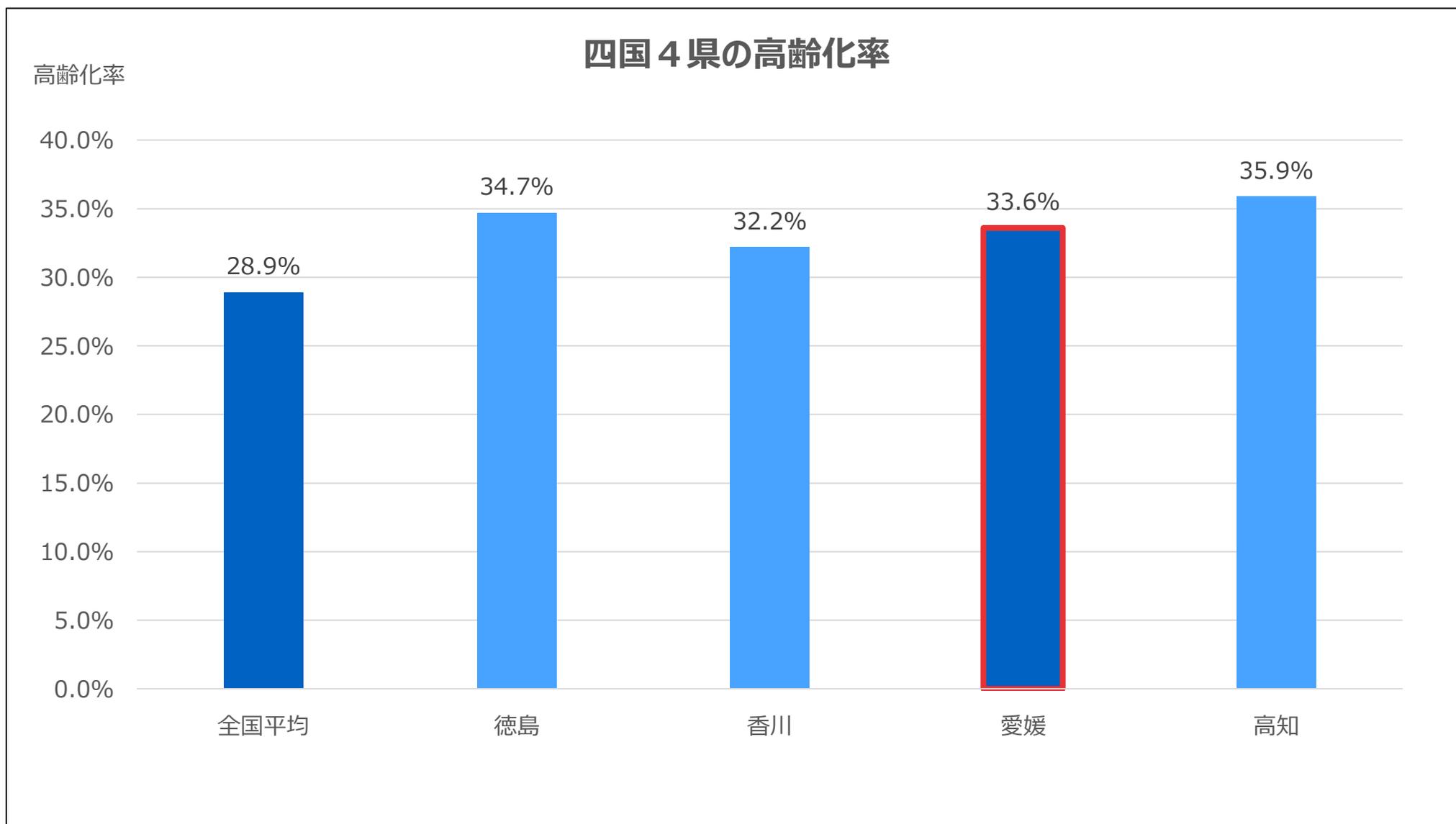
【介護業界入職超過率】



(出典) 厚生労働省「雇用動向調査」2023年

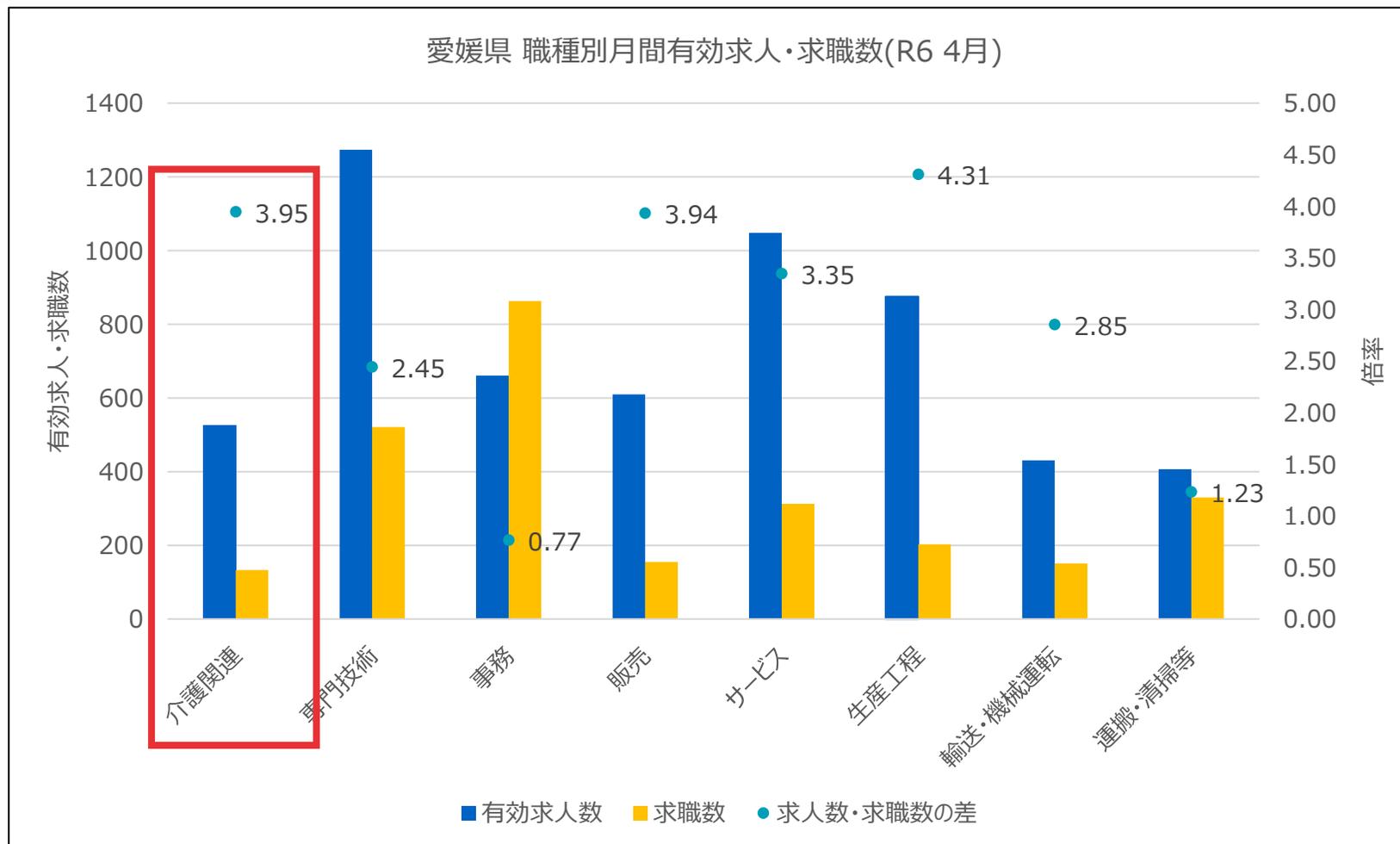
2018年時点、2025年に約38万人不足すると予想  
わずか3年で不足数が17万人増加し約55万人が不足と予想

入職率から離職率を差し引いた  
「入職超過率」が初めてのマイナスに  
2025年の介護人材不足は更に加速



※内閣府（令和3年）

[https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/html/zenbun/s1\\_1\\_4.html](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/html/zenbun/s1_1_4.html)



## 介護は有効求人倍率が非常に高い職種の一つ

※厚労省愛媛労働局（令和6年4月分）

<https://jsite.mhlw.go.jp/ehime-roudoukyoku/content/contents/001834776.pdf>

## 【介護人材不足の背景】

### 生産年齢人口の不足

- ・後期高齢者は2010年から700万人増加に対し、生産年齢人口は**1,000万人も減少**

### 他業界への流出

- ・景気回復による人材取り合いで、**高所得、好待遇の業界に転職**

### 外国人労働者の減少

- ・円安、低賃金で**労働市場としての魅力が激減**  
※オーストラリアでは介護職の年収は800万円以上

## 介護人材の増加は相当困難

介護現場のDXにより業務効率化、生産性向上し  
介護人材不足を解消

## 報酬改定と補助金の後押しで、介護ロボットの普及は一気に加速すると予想

### 全国の介護ロボット普及率

出典：公益財団法人 介護労働安定センター

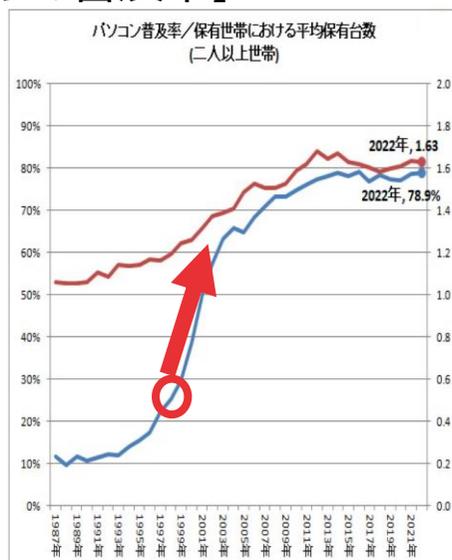
令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
19.4%	19.1%	21.7%	20%台後半と想定

※東名阪中心に補助金採択率が上昇

### 他分野のICT普及の推移

パソコン、スマホは普及率30%を超えて、マジョリティー層に拡大  
わずか2年で50%、3年で60%を超過

#### 【パソコンの普及率】



#### 【スマートフォンの普及率】



2024年度は介護報酬改定・介護ロボット導入補助金の初年度  
この3年で介護ロボットは大幅に普及すると予測

## 2) DX (デジタルトランスフォーメーション) について

DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、  
進化し続けるIT技術を浸透させることで、

**人々の生活をより良いものへと変革させるという概念**

単なるITツールの導入だけでは、DXとは呼べない  
**プロセスの変革を伴うことが重要**

## 身近な事例



デジタル化 ~~≠~~ DX

既存の業務プロセスの効率化を目指し、  
情報化やデジタル化を進めること。

**=カイゼン**

デジタル技術を活用(手段)として、

**変革**を進めること。

デジタル化が**目的**ではなく、**プロセス自体を変える!**

簡単にまとめると、

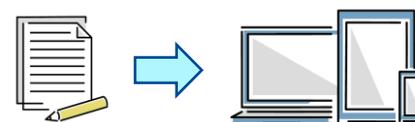
- ①アナログなやり方を**デジタル化**する → 「**デジタイゼーション**」
- ②デジタル化したものを活用し**新たな行動様式**を作る → 「**デジタライゼーション**」
- ③**組織を変革**し**事業所の価値**を高める → 「**デジタルトランスフォーメーション**」

今、最も重要視されているのは、デジタルトランスフォーメーション(DX)

介護現場に置き換えてみると・・・

## 【デジタル化(デジタイゼーション)】

例：介護記録を電子化する



## 【デジタライゼーション】

例：見守りICTを導入する

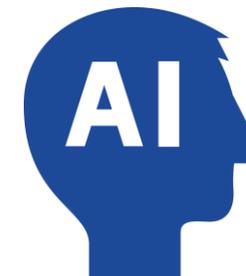
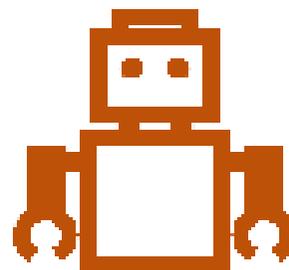


## 【デジタルトランスフォーメーション【(DX)】

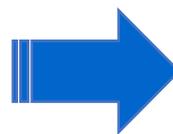
例：オペレーションへ落とし込み、働き方を変えていく



## 科学的裏付け(≒エビデンス/根拠)に基づく介護



長年の経験と勘  
(暗黙知)



データを蓄積し、活用すること  
(形式知化)

個人に依存する

みんなで使う

**科学的介護 = 介護DX**

出展：厚生労働省HP「科学的裏付けに基づく介護に係わる検討会」  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000691249.pdf>

### 3) 介護ロボットについて

「ロボット」とは、

- ①情報をもらって（センサー系）
- ②判断し（知能・制御系）
- ③動く（駆動系）

が組み合わされたシステム



「**介護ロボット**」とは、

ロボット技術が応用され、

**利用者の自立支援や介護者の  
負担の軽減に役立つ介護機器**

## 厚生労働省/経済産業省が介護ロボットとして、6分野13項目を選定

移乗支援	移動支援	排泄支援	見守り・コミュニケーション	入浴支援
<p>○装着</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>ロボット技術を用いて介助者のパワーアシストを行う装着型の機器</li> </ul>	<p>○屋外</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器</li> </ul>	<p>○排泄物処理</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置調節可能なトイレ</li> </ul>	<p>○施設</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>介護施設において使用する、センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>ロボット技術を用いて浴槽に出入りする際の一連の動作を支援する機器</li> </ul>
<p>○非装着</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>ロボット技術を用いて介助者による抱え上げ動作のパワーアシストを行う非装着型の機器</li> </ul>	<p>○屋内</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内での姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器</li> </ul>	<p>○トイレ誘導</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>ロボット技術を用いて排泄を予測し、的確なタイミングでトイレへ誘導する機器</li> </ul>	<p>○在宅</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅介護において使用する、転倒検知センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>介護業務支援</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>ロボット技術を用いて、見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器</li> </ul>
<p>厚生省・経産省によるロボット技術の介護利用開発重点分野の策定</p> <p>H24.11月 重点分野公表 H26.2月 追加改定(青枠) H29.10月 追加改定(赤枠)</p>	<p>○装着</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者等の外出をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器</li> </ul>	<p>○動作支援</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器</li> </ul>	<p>○生活支援</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者等とのコミュニケーションにロボット技術を用いた生活支援機器</li> </ul>	

# IT化 ~~≠~~ DX

既存の業務プロセスの効率化を目指し、情報化やデジタル化を進めること。

デジタル技術を活用(手段)として、変革を進めること。

**見守り機器を数台入れただけでは、現場のオペレーションは変わらない = DXできない。**

## 4) HitomeQ ケアサポート

## HitomeQ ケアサポートは 行動分析センサーとスマートフォンを軸に、 業務負担軽減による時間の創出・ケア品質の向上を推進する 介護業務支援※サービスです。

### ICT環境の提供



利用者様の行動を見守り、  
スタッフ様の業務負担を軽減

### データ活用



科学的介護の推進・  
ケア品質の向上

### サクセスサポート



介護オペレーションの変革を伴走

※保有資格（ProStaff全員取得）  
・スマート介護士資格  
・介護初任者研修

※ロボット技術の介護利用における重点分野(厚生労働省) 介護業務支援分野に該当

## センサーが入居者様の行動を認識してスマートフォンに映像でお知らせ



映像でお知らせ



起床



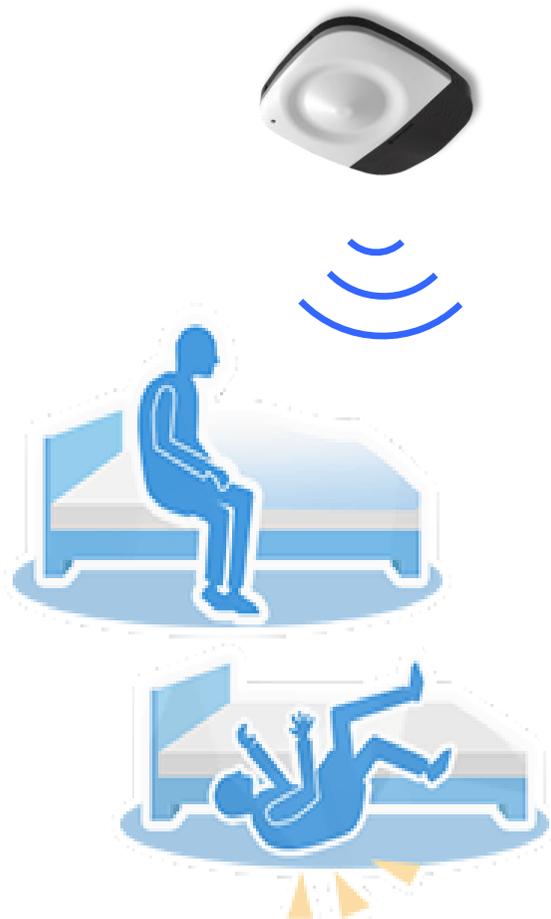
離床



転倒/転落



プライバシーを考慮し、入居者様が起床、離床、転倒転落などの注意危険行動をした時のみ映像が表示され、その他通常生活シーンの映像は表示されません。



エビデンス動画



転倒前から転倒後までの映像を録画  
(転倒/転落前後の約1分間ずつを記録)

転倒/転落の前後1分間を  
自動録画

正確な事故状況を把握

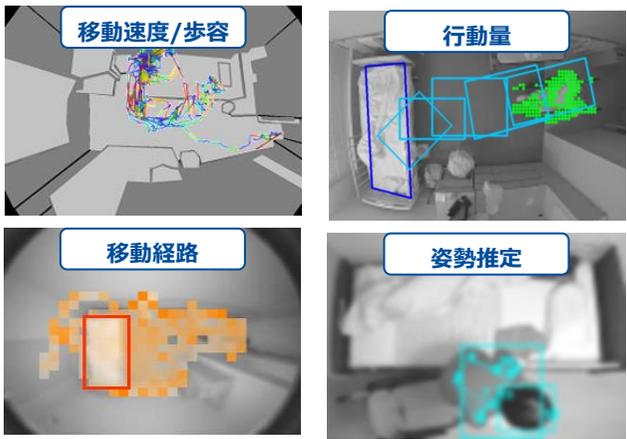
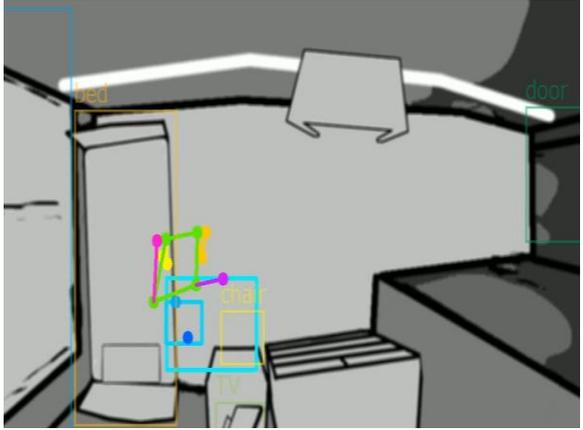
## 5) 科学的介護(介護DX)へのアプローチ

## 経験者のスキルに依存したADL/QOL維持改善



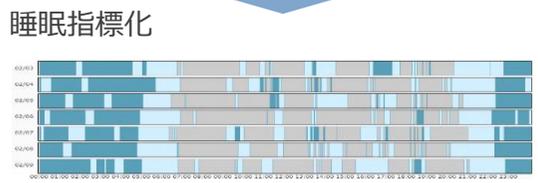
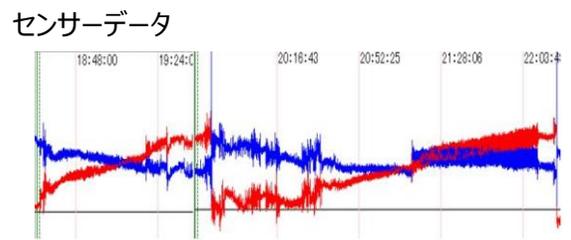
補助金活用による介護デジタル機器の普及

## 直上視点 - 俯瞰的に居室全体を観察 -

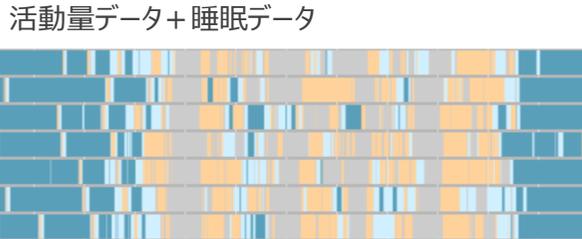


行動を指標化し、その変化点を抽出

## ドップラーセンサー - ベッド上の微体動を測定 -



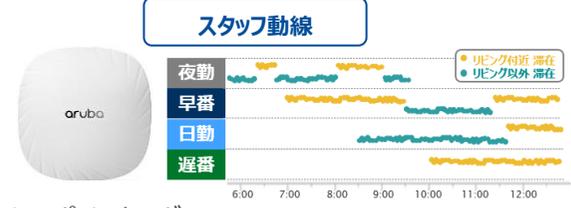
睡眠 覚醒 ベッド外



睡眠 覚醒 ベッド外 居室外

利用者の生活リズムを把握

## ケアコール/スマホログ - 利用者/スタッフの操作記録 -



業務量と業務構造を可視化

## 利用者様ごとの生活リズムやADLの中長期的変化、コール数や通知数等が、データと動画で把握

【データ可視化ツール(ウェブアプリ)ケアルーペ】

利用者: 入居者004  
部屋名:

性別: 女性  
生年月日:

### 基本情報

既往歴

フレイル (慢性期)  
脳卒中  
糖尿病

### 最近の様子

更新日時:

居室の過ごし方  
昼間: 在床・在室時間ともに普段より長いです。  
夜間: 在床が長く、在室が短いです。

介護記録

### 居室の過ごし方

2023年01月

■ 居室外 ■ 室内離床 ■ 覚醒 (在床) ■ 睡眠 (在床)

生活リズム

01-29 (日)  
01-30 (月)  
01-31 (火)

0時 6時 12時 18時 24時

ヒートマップ

2022年12月 からの変化

生活 身体機能 その他

増加

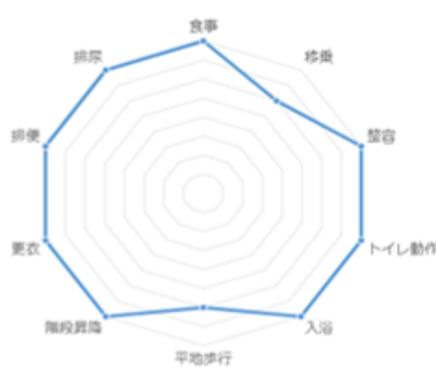
昼間在床、昼間在室

歩行速度、ふらつき

減少

### ADL

口腔 栄養 排泄 歩行 認知症

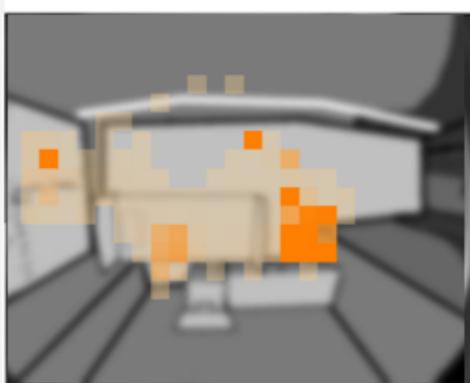


### 1日の過ごし方(月平均)

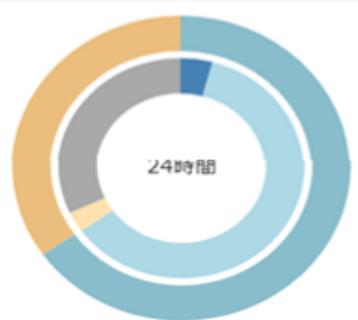
在床時間	15.6 時間	睡眠 (在床)	1.0 時間
離床時間	8.3 時間	覚醒 (在床)	14.5 時間
		室内離床	0.7 時間
		居室外	7.6 時間

ビューエリア

2023/01/31(火)昼間: 07時~翌13時



グラフ表示



# 日々のケア業務(介護過程の実践)をサポート

## 介護計画(個別介護計画)に添ったケア

お客様の業務



**アセスメント**

・情報収集  
・生活課題の明確化

**計画立案**

・目標設定  
・共有のため言語化

**実施**

・日々のケア  
・記録

**評価**

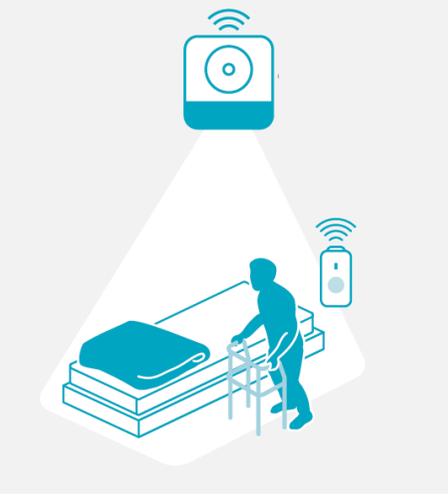
・現状確認  
・振り返り、見直し

映像からのデータにより  
自動的に生活リズム把握  
**24時間365日客観評価**

事実に基づく計画立案  
映像とデータによる  
共通理解

事前データ+映像による  
個別ケア実施

客観評価による変化把握  
事実に基づく振り返り

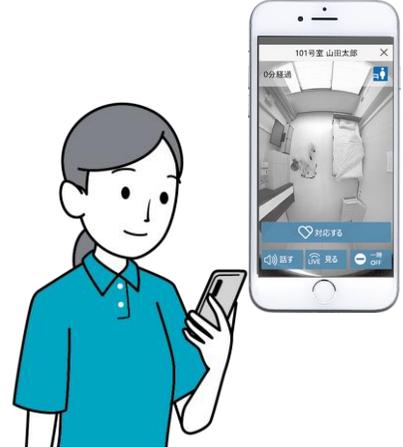


101号室 ADL・アセスメント

- ・端座：可
- ・立上り：可（不安定さ有り）
- ・独歩：可（不安定さ有り）
- ・立上りに不安がある

101号室 通時訪室ルール

・立上りでふらつきがあるため、起床通知でベッドからの起き上がりから立上りまでの様子を見守り、ふらつきがあれば適時訪室対応。



## 6) 導入効果

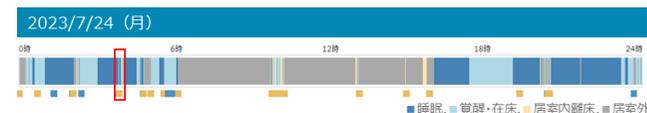
## 『アセスメント』+『かけつけて防ぐ』+『原因を究明』



- 身体機能のアセスメント
  - 利用者様の行動の癖
- ⇒ **個々に合わせた通知設定や見守りルールを決定**

- 注意行動があると通知
  - 遠隔から状況を判断して、必要に応じてかけつけ
- ⇒ **状況を“見て”防ぐ**

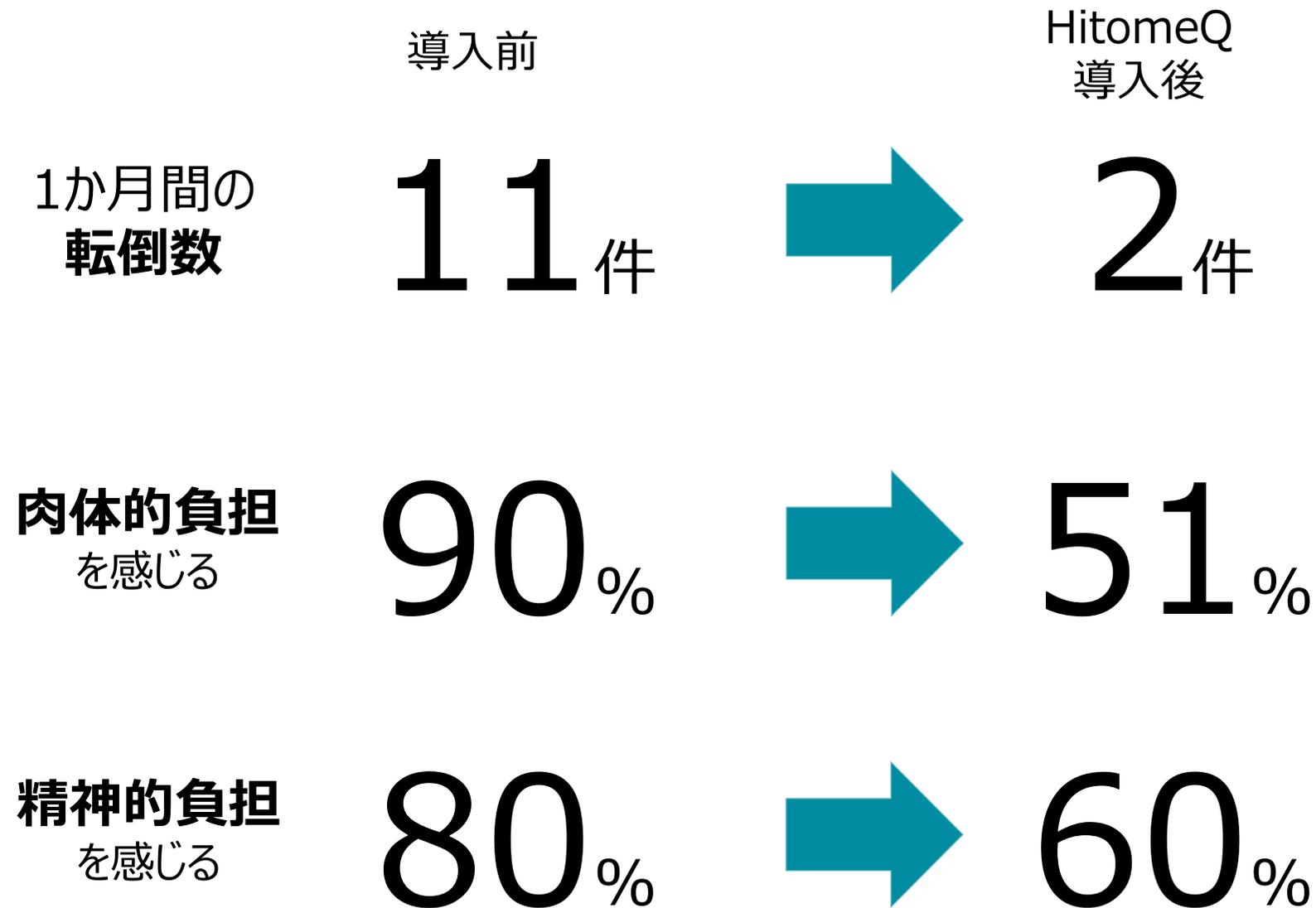
### 生活リズム（睡眠状態など）



### エビデンス動画



- いつ/どんな状況で/どこで/どのように転倒したのか
  - 睡眠状態や身体能力変化
  - 居室のレイアウト状況確認
- ⇒ **個々に沿った具体策を検討**



## ご家族

- ・万が一**転倒した際の状況説明**
- ・利用者様の体調やADL状態を共有（眠れていない、受診相談など）

## 医師・看護師

- ・夜間眠れない利用者様や幻覚が見える利用者様について、状態を説明
- ・睡眠出来ている日、出来ていない日が**定期的に変動している様子を共有**
- ・**服薬に影響を確認**しながら調整
- ・**転倒時にどこをぶつけてしまったか**説明

## ケアマネージャー

- ・どのようなサービスが利用者に必要なか、データをもとに説明や相談

介護老人保健施設様の事例



- ・通知起点での訪室を行うことで、夜間巡視を削減
- ・優先順位をつけて訪室が可能に

さらなる  
一歩

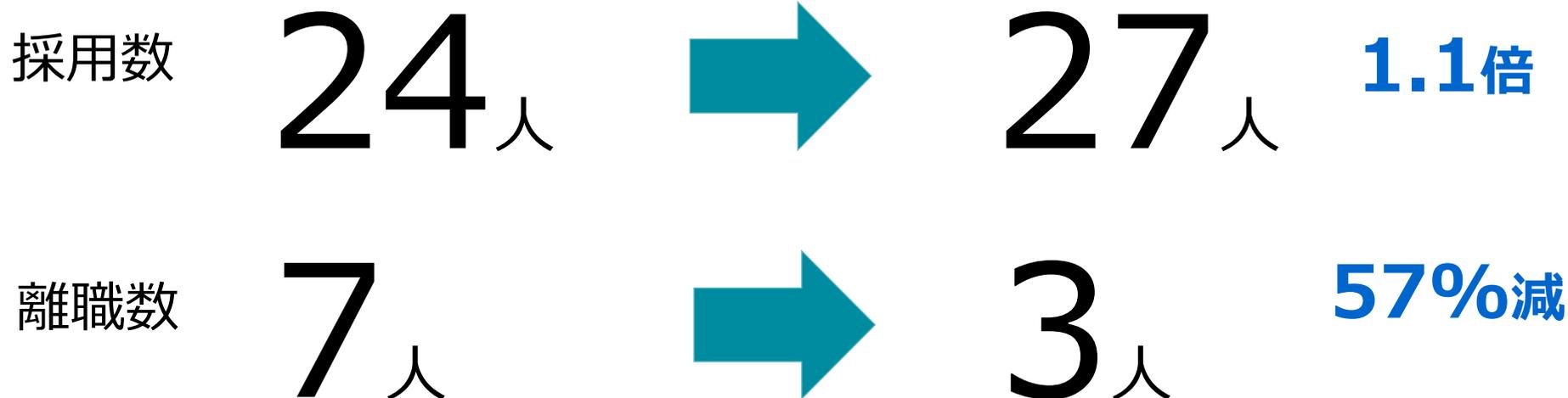
## 業務効率化から人員配置を最適化した事例

同一法人内の他施設で欠員がでたが、HitomeQ導入施設の人員を最適化できたため、他施設へ回し、人員補充せずに済んだ。

特別養護老人ホーム様の事例

導入前

HitomeQ  
導入後



## 【お客様の声】従業員の職場環境整備でサービスの質を担保

「サービスの質を担保するのは人だと思っています。人が成長しないと組織も成長しません。業界は日々変化しており、当施設も変革を進めています。新たに入職してくれている方々は、特にその変革を期待しています。従業員の方々の職場環境整備を考えた時、介護現場においても**技術革新の機器が必要**だと思い、導入を決意しました。」

## 7) デジタル介護過程の実践

## 三重県を軸として全国のターゲット顧客に影響力あるKOLと座組を形成 2021年6月から3法人4施設での実証開始

### 三重県が抱える課題

2040年に向けて認定者数の増加が見込まれ、**持続可能な介護サービス構築が課題。**

### 実施市区町

要介護者が多い圏域：津市、鈴鹿市、志摩市、亀山市、鳥羽市、南伊勢町、度会町

### 取組内容

職員負担が高い**要介護・要支援認定業務**について、可視化、分析のもと、プロセスの**効率化・標準化、画像技術などのICTソリューション活用**の共同実験を実施  
実施期間：2021年6月～2022年2月

### 補助金（千円）

9,953  
※総務省の実証事業

## KOLとの連携座組を構築

### QOLソリューション事業部

※三重県からの  
推奨団体

三重県  
老人福祉施設協会

三重県  
老人保健施設協会

三重県  
医師会

三重県  
長寿介護課

三重県老施協：160施設

全国老施協：8,200施設

三重県老健協：70施設

全国老健協：3,600施設

### 鈴鹿市：特別養護老人ホーム

- ・施設長：三重県老施協副会長
- ・ICT化で先駆的な取り組み

### 四日市市：特別養護老人ホーム

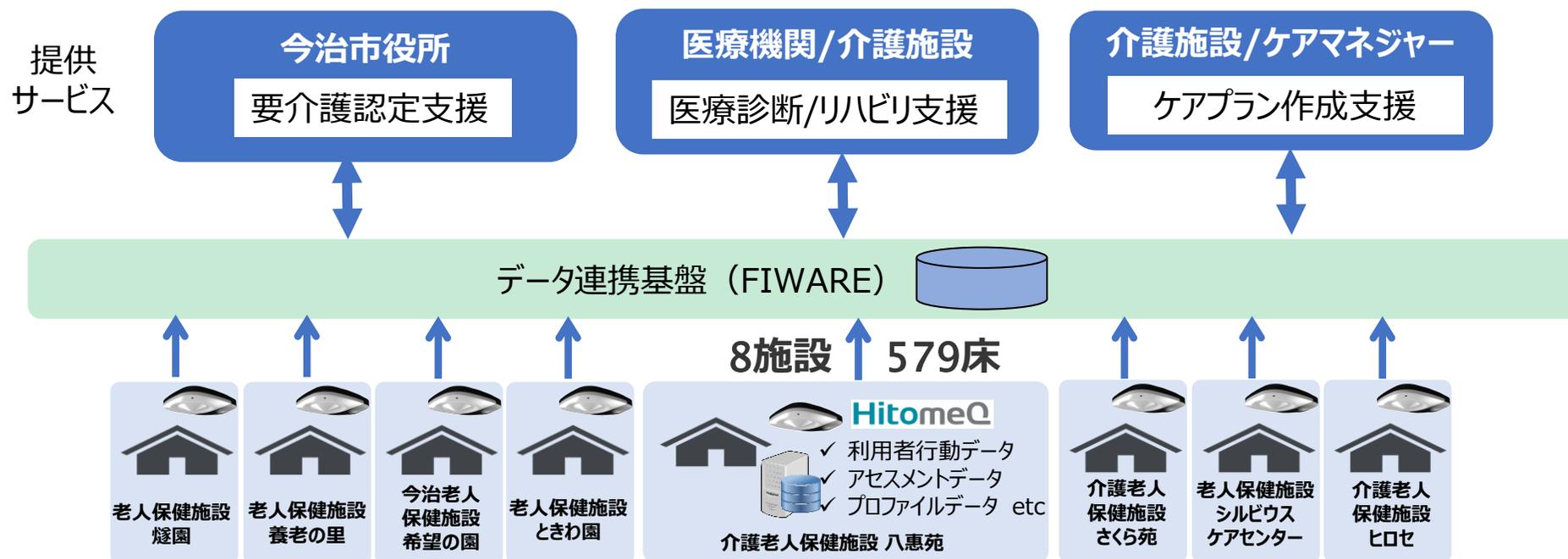
- ・施設長：全国老施協理事
- ・三重県随一の社会福祉法人

### 津市：介護老人保健施設

- ・施設長：全老健会長
- ・府省庁に対して影響力

## 愛媛県「介護業務支援システム導入等業務」 ※デジタル田園都市国家構想交付金事業

1	見守りシステム導入	今治市内の介護老人保健施設 8 施設に見守りシステムを導入し、 <b>デジタル活用により介護スタッフの業務改善を行い、負荷を軽減</b> 。並行して、施設利用高齢者の行動データを収集し、データ連携基盤に送信。
2	要介護認定支援サービス構築	今治市、医療機関、居宅介護支援事業所等において <b>多大な工数を要している要介護認定業務において、デジタル技術を用いて工数負担を軽減</b> できるサービスを構築。
3	医療診断・リハビリ支援サービス構築	見守りセンサにより取得したデータを用いることで利用者の状態を連続してモニタリングし、各利用者に <b>最適な医療・リハビリを行えるよう支援するサービス</b> を構築。
4	ケアプラン作成支援サービス構築	見守りセンサにより取得したデータを用いることで利用者の状態を連続してモニタリングし、各利用者に <b>最適なケアプラン作成を行えるよう支援するサービス</b> を構築。



## AI姿勢推定 + 物体認識

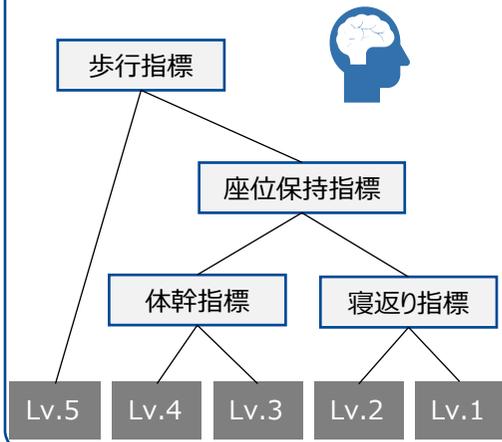
### <自立移動・移乗判断>

- 補助具と歩容自動検出
- 座位保持の状態評価
- 移乗行動から体幹の回転速度を自動判定

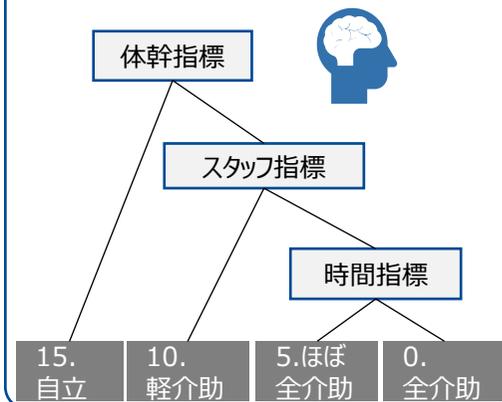


## 複合分析

### ICFステージング: 「基本動作」判定フロー



### Barthel Index: 車椅子移乗 判定フロー



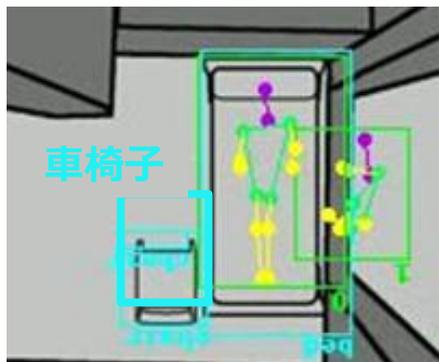
## 客観評価によるアセスメント

- ✓客観的指標によるアセスメントの実証試験を元に、「基本動作」と「ADL状態」の自動判定AIを開発
- ✓AI判定に人の評価を加え、身体機能と要介護度を自動判定
- ✓LIFEへの入力、各種計画書作成を支援

### アセスメント支援ツール

### <介護者と利用者の位置関係検出>

- 利用者の自立度判定
- 利用者と介護者の近接度判定
- 体位変換、移乗介助に要した時間計測





# ADL自動アセスメント

寝返りと更衣の2項目は職員が手入力します。  
 移動と移乗に関する項目は動画からAIが自動判定します。  
 寝返り・更衣・AIによる動作分析結果から利用者の状態像を推定し、それに応じてトイレ動作・入浴など他の動作状態を推定します。

ICFステージング

Barthel Index

CARE LOUPE

新デモ施設 | ログアウト

利用者: 入居者002  
 部屋名: 1丁目02番地

アセスメント判定

アセスメント入力 [登録]

寝返り  
 自立  見守り  一部介助  全介助

更衣  
 自立  一部介助  全介助

基本動作

	自動判定	手動入力
寝返り:	見守り	見守り
起き上がり:	一部介助	一部介助
座位の保持:	見守り	見守り
立ち上がり:	一部介助	一部介助
立位の保持:	一部介助	一部介助

自動判定結果  
 要介護度 4 相当

基本動作  
 前回()  
 最新(2023/02/04)

ADL状態

	自動判定	手動入力
食事:	自立	自立
移乗:	座れるが移れ	座れるが移れ
整容:	一部介助	一部介助
トイレ動作:	一部介助	一部介助
入浴:	全介助	全介助
平地歩行:	全介助	全介助
階段昇降:	全介助	全介助
更衣:	全介助	全介助
排便:	一部介助	一部介助
排尿:	一部介助	一部介助

自動判定結果  
 前回()  
 最新(2023/02/04)

画像からのアセスメント結果 | 車椅子移動 | 介助移乗

2023年02月03日 - 2023年02月03日

- 2023/02/03 18:40:35
- 2023/02/03 14:08:15
- 2023/02/03 14:07:50
- 2023/02/03 13:00:09
- 2023/02/03 00:32:48 車椅子移動

## 転倒に至る要因を整理し、転倒対策の検討を補助するツールです 立ち止まり・ふらつきの発生が多いエリアを危険域と判断して表示します

CARE LOUPE

新デモ施設 ▼ ログアウト

- ☰ サマリー
- 👤 コール負荷
- 📅 最近の様子
- 🕒 デイリーレポート
- 📅 期間レポート
- 👤 スタッフ
- 📊 睡眠状態
- 🏠 居室での過ごし方
- 🎥 動画
- 📈 行動の様子
- 🗺️ 転倒ハザードマップ
- ✍️ LIFE入力支援
- 📈 自動アセスメント
- 📄 個人サマリー
- 📄 リハビリレコメンド
- 📄 LIFE取込
- 🔍 ヘルプ

フロア選択: 全体 ▼

利用者名 検索:  Q  退所者を含む

入居者001	1丁目01番地
入居者002	1丁目02番地
入居者246	1丁目03番地
入居者004	1丁目04番地
入居者005	1丁目05番地
入居者006	1丁目06番地
入居者007	1丁目07番地
入居者008	1丁目08番地
入居者009	1丁目09番地
入居者195	1丁目10番地
入居者003	1丁目11番地
入居者010	1丁目12番地
入居者013	1丁目13番地
入居者014	1丁目14番地

入居者002 1丁目02番地 過去履歴

### 利用者像

ADLは中程度で歩行器利用  
転倒による骨折経験がある  
入院中に廃用と認知症が進む

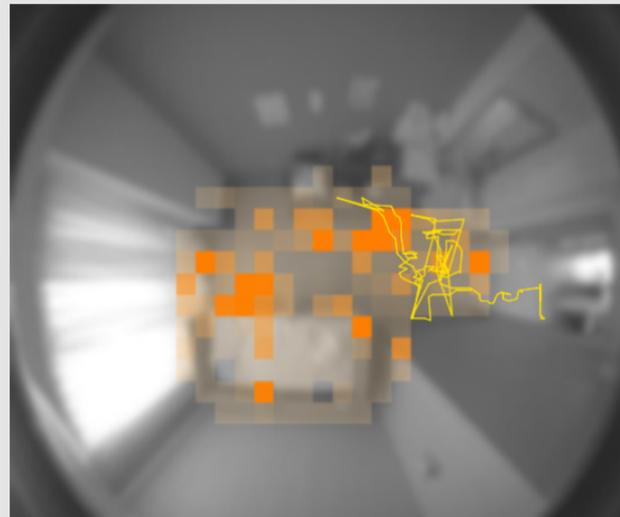
### 転倒対策

歩行器をベッド横に移動させる  
床の荷物を整理する

キャンセル 保存

表示対象  危険域  行動域 2023年06月21日 昼間 夜間

時間帯選択 10 軌跡選択 10:38:10



区分	内容
生理機能低下	筋力低下、バランス能低下、転倒で骨折 長期臥床で廃用症候群疑い 夜間離床回数：3～4回/日
老年症候群	軽度認知症
疾患	骨粗しょう症、腰痛 筋力低下 中程度ふらつき
薬剤	糖尿病薬
歩行様態	歩行器
住環境	歩行器がタンスの前に置かれており、ベッドから距離がある。 入り口付近のトイレ前に荷物が並んでおり、歩行器利用の際に引っ掛けることがある。

## 8) データによる介護オペレーションの標準化

## スタッフ様ごとの業務状況をダッシュボード上にて可視化 行動状況の把握/バラツキ抑制対策検討/負担軽減検討等 法人本部主導での改善推進に活用



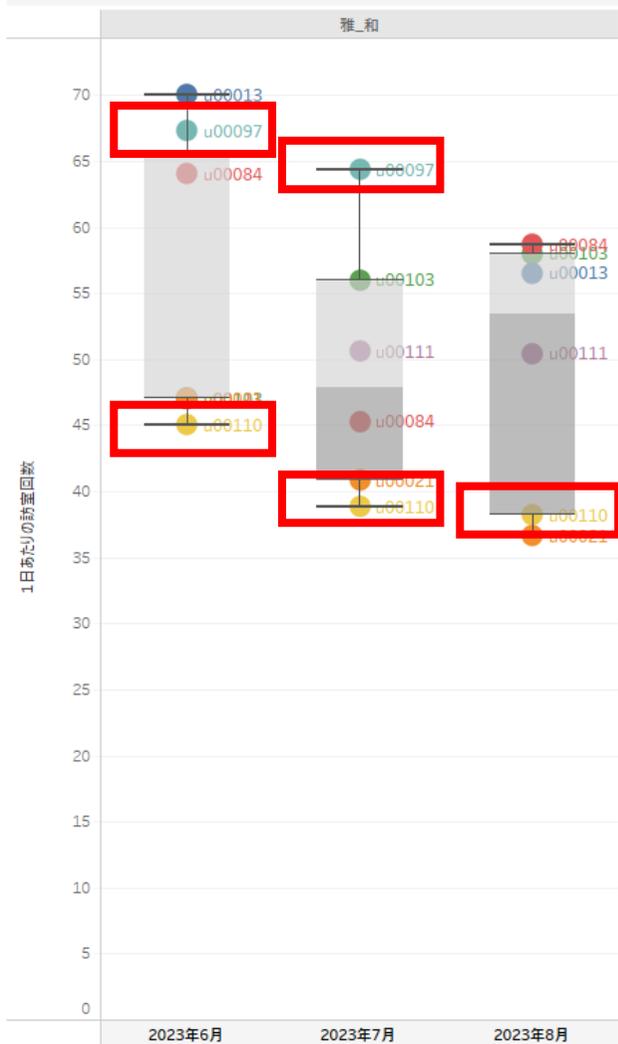
## 『データの収集～可視化』までを自動対応

	収集	集計	可視化	分析	対策検討	効果確認
施設様で 対応する場合	張り付きで 測定	測定後に 集計	グラフや図表を 作成	施設課題の 要因把握のため 詳細分析	分析結果に もとづき 対策検討/実施	効果確認のため 再度測定し 集計後に確認
本サービスを 利用した場合	ダッシュボードで施設状況を確認 (収集/集計/可視化は本システムが自動で対応)			施設課題の 要因把握のため 詳細分析	分析結果に もとづき 対策検討/実施	翌月のデータで 効果を確認

法人様/施設様で人員や工数を用意することなく、スタッフ様の業務状況の把握が可能

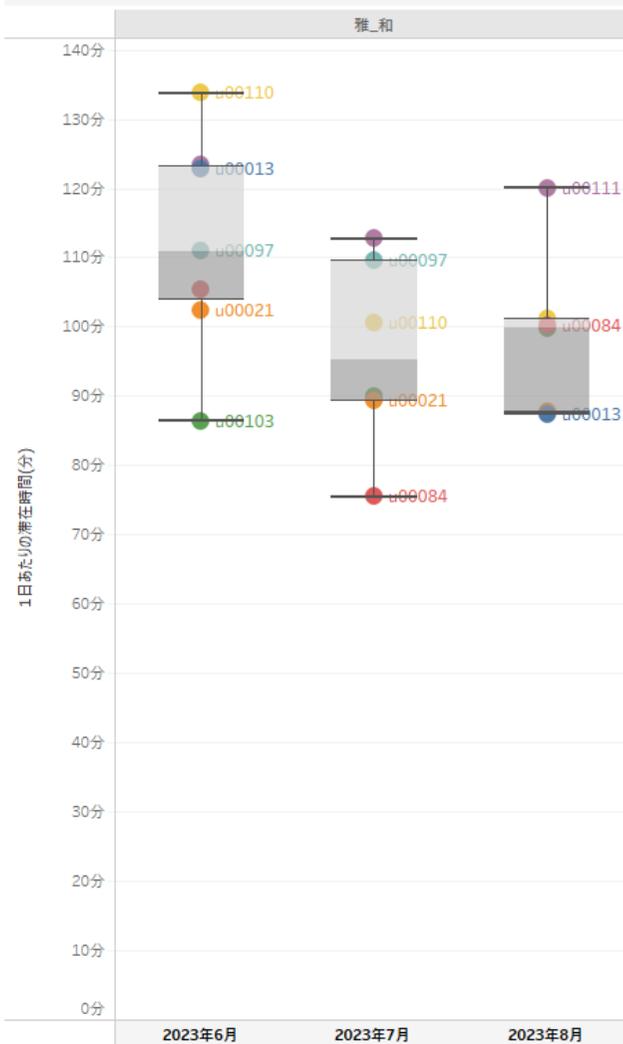
## 3. 夜間業務負担

■1日あたりの夜間訪室数



\*集計時間：21:00-05:00

■1日あたりの夜間滞在時間



\*集計時間：21:00-05:00

■1日あたりの夜間通知対応数



\*集計時間：21:00-05:00

年月

- 2023年4月
- 2023年5月
- 2023年6月
- 2023年7月
- 2023年8月

supportfinishlinkid

- u00013
- u00021
- u00084
- u00097
- u00103
- u00110
- u00111

shift\_ideal

- 雅\_和
- 松\_竹
- 鶴\_亀
- 篠\_寿

# 訪室滞在時間



KONICA MINOLTA

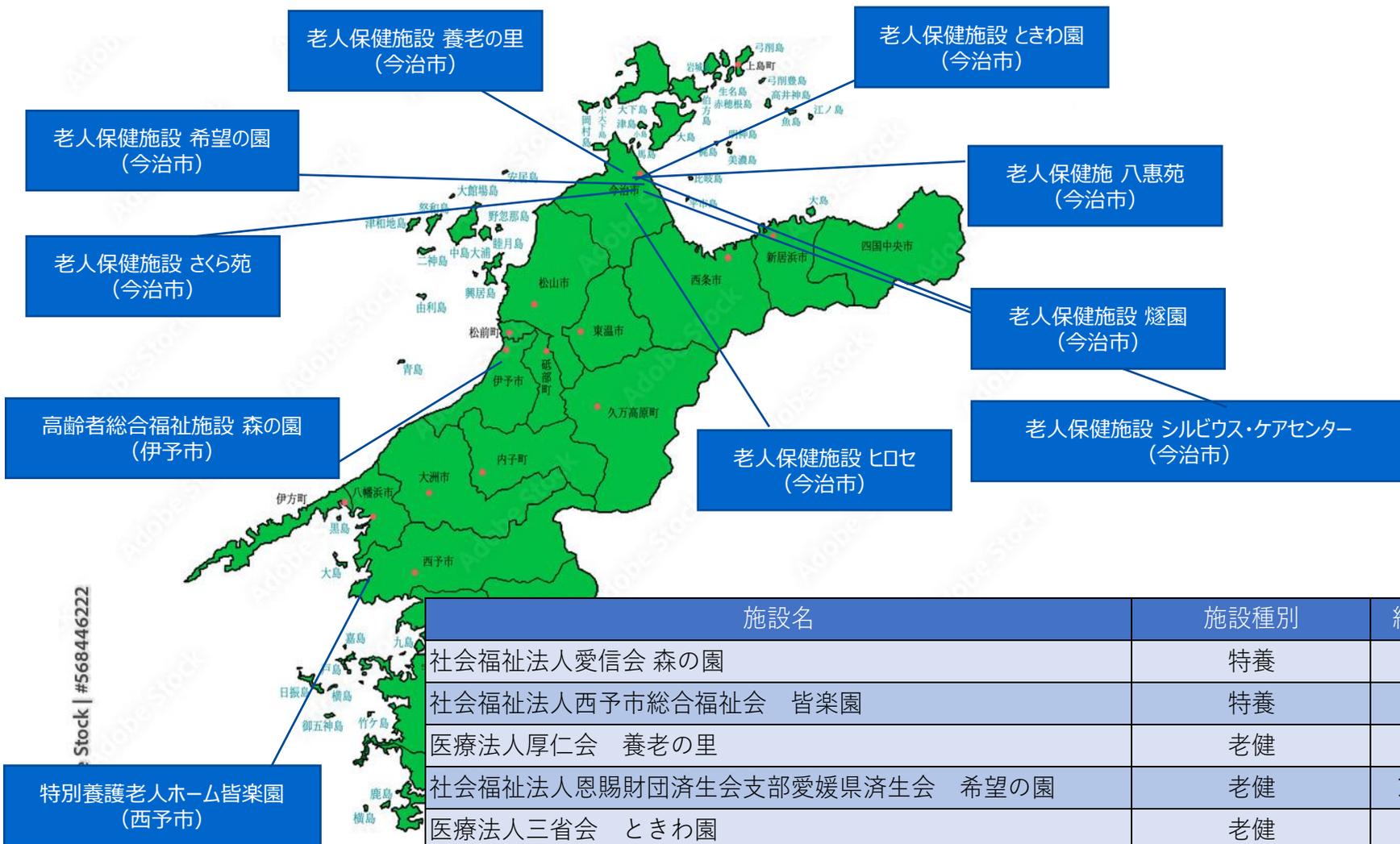
## 5. 訪室回数と滞在時間(スタッフ様別)



\*集計時間：21:00-05:00

## 9) 愛媛の導入状況

# HitomeQ導入施設



施設名	施設種別	総床数	HitomeQの導入床数
社会福祉法人愛信会 森の園	特養	70床	10床
社会福祉法人西予市総合福祉会 皆楽園	特養	60床	60床
医療法人厚仁会 養老の里	老健	50床	50床
社会福祉法人恩賜財団済生会支部愛媛県済生会 希望の園	老健	100床	100床
医療法人三省会 ときわ園	老健	34床	34床
医療法人順天会 八恵苑	老健	80床	80床
医療法人滴水会 燧園	老健	100床	100床
医療法人陽成会 ヒロセ	老健	80床	80床
医療法人隆典会 シルビウス・ケアセンター	老健	85床	85床
医療法人ルカ会 さくら苑	老健	50床	50床

Stock | #568446222

都道府県	R6予算	R5予算	内訳	予算差額	増減率
徳島県	160,000,000	90,000,000	合	70,000,000	178%
香川県	60,000,000	60,000,000	合	0	100%
愛媛県	240,000,000	80,000,000	※ICT別	160,000,000	300%
高知県	200,000,000	114,000,000		86,000,000	175%
※愛媛県ICT補助金別途160,000,000円					

## R5年愛媛県介護ロボット補助金

### 以下の要件を満たす介護事業所に補助する場合 補助率：4分の3

少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定していること

**機器 1 台当たりの補助上限：30万円 限度台数 なし**

**見守り機器の導入に伴う通信環境整備**  
1事業所につき750万円を上限



**KONICA MINOLTA**